

ユネスコ

2024.4
vol. 1180

令和6年能登半島地震 災害子ども教育支援募金 ご協力のお願い

CONTENTS

- 1 特集: 未来遺産運動
 - 「プロジェクト未来遺産2023」登録決定
 - 「阿波人形浄瑠璃平成座」座長・徳島ユネスコ協会会長 藤本宗子さんインタビュー
- 3 TOPICS
 - 世界遺産ポロブドゥール地域に根差したSDGsの実現
- 4 ユネスコ活動の広場
 - ユネスコ青年全国大会2024 in 東京開催
 - リーダーセミナー開催
 - 新規加入会員のご紹介
- 5 ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金 支援報告
- 7 活動報告
 - 災害子ども教育支援
 - 世界寺子屋運動
 - U-Smile ~みんなでつなぐ子ども応援プログラム
 - 第10回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム
- 11 お知らせ・募集
 - 理事会・評議員会報告
 - 日本ユネスコ国内委員会総会報告

被災した子どもたちへ支援の手を

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」において被災された皆さまに、衷心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震では、学校施設の損壊だけでも1017校(2024年2月19日時点 文部科学省情報)にのぼるなど学校現場への被害が甚大であり、被災により家庭の経済状況が悪化し、進学が困難になる子どもの増加も懸念されています。

日本ユネスコ協会連盟では、東日本大震災支援の後継事業である災害子ども教育支援を通して、「令和6年能登半島地震」への教育復興支援を行います。被災した子どもたちが進学を諦めることがないよう、また1日も早くいつもの学校生活を送れるよう、当連盟はNGOとして、行政の手が行き届かない細かなニーズに対応する支援を行います。

現在、支援のためのご協力を呼び掛けています。募金方法、支援内容の詳細はP.7をご覧ください。

皆さまの温かいご協力を心よりお願い申し上げます。

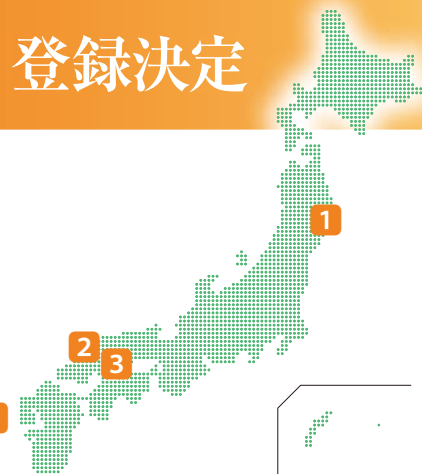
きょういくで、あしたへいく。

新たに4プロジェクトを登録しました

今回で13回目となった「プロジェクト未来遺産」の募集には、全国から多くの応募が寄せられました。3月8日(金)に開催した未来遺産委員会で、新たに4プロジェクトの登録が決定し、全83プロジェクトとなりました。

(文化事業部)

4



① 巨大防浪堤を未来へ ～岩手県宮古市田老の津波防災伝承活動～



団体名: 特定非営利活動法人 津波太郎
エリア: 岩手県宮古市

宮古市田老地区は明治29年と昭和8年の三陸大津波によって壊滅的な被害を受け、昭和9年から、村民たちが石を運んで積み上げた最初の防浪堤(防潮堤/写真は昭和期につくられたもの)が今も残る地です。NPO法人津波太郎は、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた田老地区の復興支援を推進してきた団体を前身とし、未来に向けた「まちのこし」活動を行っています。その活動は、防浪堤をシンボルとしつつ、津波被害の実態や記憶を記録・伝承し、地元の教育機関と連携した防災教育を主軸としています。海と共存しながらふるさと愛を醸成し、日本そして世界の津波防災・減災の取り組みにつなげていくことを目指しています。

② 伝統芸能石見神楽を未来に継承サポートプロジェクト



団体名: どんちっちサポートIWAMI
エリア: 島根県浜田市

どんちっちサポートIWAMIは、島根県西部の石見地域を中心に伝承される石見神楽の後継者育成と、石見神楽を通じた青少年育成を目的に設立されました。「どんちっち」とは子どもの言葉で石見神楽を意味し、浜田市内の各子供神楽の相互連携を図り、「いわみ子供神楽フェスタ」の開催や、神社清掃、石見神楽カルタの大会を実施しています。自身の所属する団体の活動だけではなく、市内全体を視野に入れた活動に参加することで子どもたちの伝承意欲を高め、実際に子供神楽を経験した青年たちが神楽のために地域に残り、本団体の活動を支え、石見神楽の伝承の担い手になっています。

③ 歩こう子どもたち! ～未来につながる「備中とと道」～



団体名: 備中とと道トレイル推進協議会
エリア: 岡山県(笠岡市、矢掛町、井原市、高梁市)

「備中とと道」とは、明治から昭和初期にかけ、瀬戸内海沿岸の笠岡市金浦から新鮮な魚を吉備高原山中の吹屋まで、屈強な魚仲仕(うおなかせ)が夜掛けのリレー方式で運んだ南北約60kmにわたる山道です。近代化によりこの道は使命を終え、森の中に放置されましたが、備中とと道トレイル推進協議会の前身体や地元の個人などによる膨大な作業の末、2017年に1本の道を同定しました。この復元した道を「歩く遺産」として後世に残すため、定期的な草刈り、沿道の歴史、文化、自然に触れるトレイルウォーク大会の開催や地元の学校での出前授業等、沿道地域の歴史文化や暮らしの記憶を発掘し、次世代へ継承しています。

④ 五島に残る玉之浦神楽 ～子どもたちへの伝承プロジェクト～



団体名: 白鳥神社神楽保存会
エリア: 長崎県五島市

五島列島では神楽が盛んで、福江島の西端に位置する玉之浦町も、400年以上前から、白鳥神社の例大祭などで玉之浦神楽が舞われてきました。しかし、地区の高齢化と人口減少により、近年は例大祭において神楽を舞うことができていません。このため、商店街の店の一部を改装した常設の演舞場を創設し、いつでも神楽を舞い、稽古ができる体制を整え、演舞会や子ども神楽教室を開くなど、例大祭の場に限定せず、現状にあった持続可能な形で神楽の継承に努め、子どもたちが地元の伝統文化に触れられる機会を創り出しています。



「世界に伝えたい!!阿波人形浄瑠璃の魅力未来遺産プロジェクト」

プロジェクト未来遺産登録10周年を迎えて

阿波人形浄瑠璃平成座座長 徳島ユネスコ協会会長
藤本宗子(竹本友幸)さんインタビュー

阿波人形浄瑠璃は、徳島県(阿波)で伝承されてきた国の重要無形民俗文化財。その次世代の担い手として、子どもたちの育成に力を注いできたのが平成座です。2013年度には「世界に伝えたい!!阿波人形浄瑠璃の魅力未来遺産プロジェクト」として、プロジェクト未来遺産に登録されました。座長であり、徳島ユネスコ協会の会長も務める藤本宗子さんに、阿波人形浄瑠璃にかける思いを伺いました。(企画広報部)

かけがえのない郷土の芸能を次の世代に

衰 退しつつあった阿波人形浄瑠璃を盛り上げようと、平成座が旗揚げしたのは平成元年(1989)。婦人会の会長をしていた藤本さんの母・幸子さんらが中心となりましたが、人形浄瑠璃についてはまったくの素人でした。それでも、人形遣いのほかに、勢いをなくしていた太夫(語り)や三味線まで加えた画期的な座として誕生したのです。

以来、平成座は研鑽を重ね、1996年には代表的な演目「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」だけの全国大会を計画。県内外の19座が、阿波人形浄瑠璃の拠点である徳島県立阿波十郎兵衛屋敷に集結しました。結果は大成功でしたが、一方で、藤本さんは多くの座が後継者不足に直面していることを実感します。

「これからは子どもたちに伝えていかなあかん」

地元小学校の全校児童を対象に、平成座が初めて人形浄瑠璃の授業を行ったのは、その翌年のことでした。

「こんな小さい子にわかるかなあとも思ったのですが、1年は1年なりに、6年は6年なりに感想を寄せてくれました。それを読んで『これならいける!』と、『学校にクラブをつくったら、皆するで(しますか)?』と尋ねたら『はい!』と。それでできたのが川内北小学校人形浄瑠璃クラブです」



「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」の母娘を手にする平成座の人形遣いのメンバー。一体の人形を3人で操る。阿波十郎兵衛屋敷にて

子どもたちには手間を惜しまず、愛情込めて

川内北小にクラブができた翌1998年、藤本さんはじめ平成座の太夫・三味線全員が、義太夫節で人間国宝となった淡路島の故鶴澤友路(ともじ)師匠に入門。淡路に通ってさらに稽古を重ね、全員が名前をいただけるまでになりました。(藤本さんの太夫名は竹本友幸)

「仕事や家事、PTA、商工会議所と忙しく、何度もやめようかと思いましたが、でも、師匠が淡路の子どもたちに教えていらした

ので、私たちが師匠の浄瑠璃の心を子どもたちに伝えたいと。座員の皆も仕事などいろいろある中で稽古に来てくれています」

その後、平成座はいくつもの小学校にクラブをつくったほか、地域の枠を超えた平成座ジュニアクラブを設立。出前授業も100回を超えました。また、老人クラブや留学生への指導も行い、国や地域・年齢・性別を超えた幅広い活動で2013年、プロジェクト未来遺産に登録。昨年の10周年記念公演では徳島在住の外国の方々を招待し、人形を操る体験なども好評でした。

「外国の方には難しい日本語でしたが、浄瑠璃の魅力に触れていただけたかな。境をつくらず皆で一緒に、という活動です。中でも、子どもたちは純粋ですから、真髄を見抜きますので侮れません。温かく愛情込めて、ていねいに教える。そういう手間を惜しんだらあかんのです」



週に1度のお稽古風景。子どもが自由に使える人形を用意した

現 在、藤本さんは平成座の座長と徳島ユネスコ協会の会長、2つの立場から子どもたちの豊かな未来を見つめています。未来遺産として100年後の子どもたちに伝えるという使命もあります。

「平成座では広島でも2回公演を行い、被爆樹木を守る活動でプロジェクト未来遺産に登録された団体と交流しました。日本ユネスコ協会連盟には、未来遺産を世界に向けて発信したり、登録団体同士の交流を図ったりと、登録後にもユネスコならではの活動の広がりを期待したいですね」

阿波人形浄瑠璃：その昔、淡路島から徳島に伝わり、村々で庶民の娯楽として受け継がれてきた。いまま県内には全国で最多の農村舞台が残され、人形座や太夫部屋、人形師の数も群を抜いている。

ふじもと・むねこ

(たけもと・ともゆき)

1959年、徳島県生まれ。2001年から阿波人形浄瑠璃平成座座長。竹本友幸の名で太夫を演じる(写真)。2016~2020年、徳島県教育委員。(有)アットホーム藤本材木店専務取締役。徳島商工会議所副会頭。日本ユネスコ協会連盟評議員。2023年から徳島ユネスコ協会会長。



新事業スタート! 「世界遺産ボロブドゥール地域に根差したSDGsの実現」

対象国	インドネシア
対象資産	ボロブドゥール寺院遺跡群
プログラム内容	<p>①ボロブドゥール地域の伝統的家屋を持続可能な方法で維持管理するためのガイドラインの開発</p> <p>②ボロブドゥール地域を題材にSDGsの実現に向けた大学生の能力開発</p>

2023年度より国連機関UNESCOのジャカルタ事務所と協力して、新しい世界遺産事業を開始しました。本事業では、インドネシアのボロブドゥール寺院遺跡群周辺の文化的景観の保全と、そこに暮らす住民の課題を解決するために2つのプログラムを実施します。

一つ目は、ボロブドゥール地域の文化的景観の一部である伝統的家屋を持続的に維持管理していくための、住民用ガイドラインを開発・普及する事業です。多くの世界遺産では、周辺の開発による景観の破壊が世界遺産としての価値に影響を及ぼし、喫緊の課題となっています。ボロブドゥール地域で



ボロブドゥール寺院遺跡群全景 © Balai Konservasi Borobudur

も、ジャワの伝統的な建築様式を持つ家屋の維持が困難になっており、その景観が脅かされています。

二つ目は、インドネシアの大学生に研修を通じて、ボロブドゥール地域に暮らす人びとのさまざまな課題に対し、総合的な解決案を考案してもらう事業です。ボロブドゥールは有名な観光地ですが、寺院群に観光客が集中し、周辺に暮らす人びとはその社会的・経済的恩恵を受けられず、格差が広がり、住民たちの社会福祉の向上が課題となっています。

本事業では、このように地域住民への普及啓発と、学生を対象とした教育プログラムを実施し、ボロブドゥール地域の保全・継承に貢献します。

そのキックオフイベントとして、2023年11月29日(水)、インドネシアの学生を対象に世界遺産に関するオンラインワークショップを開催しました。ワークショップには100名近い学生が参加し、ボロブドゥール寺院のバーチャルツアーや講義、世界遺産クイズなどを行いました。2024年度は本格的に各プログラムが始動する予定で、随時活動報告を行います。(文化事業部)



バーチャルツアーの様子

【ボロブドゥール寺院遺跡群】1991年、世界遺産に登録。ジョクジャカルタの北西約40kmに位置し、1814年当時のジャワ島副総督のラッフルズによって発見された。建築年代に明証はないが、8~9世紀にかけてこの地に仏教文化が栄えたころのものと推定され、仏教建築の最高峰といわれている

TBS



世界遺産 THE WORLD HERITAGE

世界遺産

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

4月~6月 ラインナップ

- 4月 7日 屋久島 (日本)
- 4月14日 ナスカとパルパの地上絵 (ペルー)
- 4月21日 ゲボル韓国干潟 (韓国)
- 4月28日 チトワン国立公園 (ネパール)
- 5月 5日 ナミブ砂海 (ナミビア)
- 5月12日 テトゥアン旧市街 (モロッコ)
- 5月19日 キリマンジャロ国立公園前編 (タンザニア)
- 5月26日 キリマンジャロ国立公園後編 (タンザニア)
- 6月 2日 カトマンズ盆地 (ネパール)
- 6月 9日 企画「世界遺産とは？」
- 6月16日 ドンパヤイェン・カオヤイ森林群 (タイ)
- 6月23日 ラジャスターン州のジャイプール市街 (インド)
- 6月30日 プレア・ヴィヒア寺院 (カンボジア)

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>

ユネスコ活動の広場

「ユネスコ青年全国大会 2024 in 東京」を開催

ユネスコ青年全国大会が、全国的青年連絡組織(※)主催で、1月6日(土)・7日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)で開催されました。2020年度以降はコロナ禍によりオンライン開催だったため、4年ぶりの対面開催でした。東北から九州まで14のユネスコ協会・クラブ(以下、ユ協)から青年会員が集まり、交流や情報交換を行いました。

大会では、各ユ協の活動発表や、平和のためにどんなアクションができるかをテーマにディスカッションを行いました。そのほか、「平和の鐘を鳴らそう」(下記参照)の取り組みの一環で、イスラム教寺院のモスクを訪問し宗教理解をはかる活動や、体が不自由でも運動が苦手でもできる競技の運動会を通してダイバーシティについて考える活動も行いました。参加者からは、「実際に会うことにより全国に仲間がいることが実感でき、勇気づけられた。自分ももっとユネスコ活動を進めていかなければならないと刺激になった」「交流することにより、全国の人たちが自分の住む地域に興味を持ってくれたことがうれしかった」「普段の生活ではなかなか平和について考えられないので、とてもよい機会だった」などの意

見が出されました。青年会員同士が集い連携することで、新たな活動・意欲につながることが期待されます。

2024年度は、2025年1月11日(土)・12日(日)の開催を予定しています。(組織部)



※全国的青年連絡組織 ユネスコ協会・クラブに所属する青年会員(15歳以上35歳未満)で組織され、青年ネットワークを維持、強化し、青年の意見を集約、民間ユネスコ運動の促進をはかるために活動しています。

令和版！^{かね・おと}平和の鐘を鳴らそうプロジェクト始動

平和への祈りと願いを込めて、地域のお寺や教会の鐘を鳴らそうと呼びかける運動。2000年に国連機関UNESCOが提唱し国連が定めた「平和の文化国際年」のキャンペーン事業として、当連盟が全国のユネスコ協会・クラブに取り組みを呼びかけました(2000年以前から取り組んでいる協会・クラブも)。現在、「令和版！平和の鐘を鳴らそうプロジェクト」が始動し、青年会員を中心に、20年以上継続したこの運動を新しい展開にしようとプロジェクトを進めています。

リーダーセミナーを開催

3月9日(土)、ユ協会員を対象としたリーダーセミナーを開催(対面・オンラインのハイブリッド)し、34名が参加しました。リーダーセミナーは、民間ユネスコ運動の次世代の担い手を育成することを目的に毎年開催している勉強会です。

今回はドキュメンタリーフォトグラファーの小松由佳氏が「故郷を失った難民の日々～シリア難民から考える世界～」と題し、国際交流、難民問題をテーマに講演しました。シリア紛争によって、あるシリア人家族の生活が一変し難民となった過程、そして現在も難民状態が続く様子について、写真とともに説明しました。現地へ赴き、現地の人々の声を聞くことでわかり得ない実情の数々に、参加者からは「目の覚める思いだ」「自分たちに何ができるかと深く考えた」「報道では伝わっていないことが多いと気づいた」などの感想が寄せられました。(組織部)



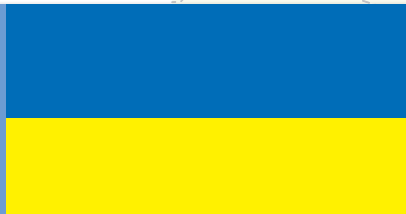
シリアの実情について自身の体験を踏まえて語る小松由佳氏

◆新規加入会員のご紹介◆

構成団体会員 高知ユネスコ協会(高知県高知市) 会長 和田 栄治

高知ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に基づき、NPO法人維新隊ユネスコクラブ(東京都)のステップアップ塾(食事付き無料塾)のスキームを利用した学習支援活動などを行っています。高知での食事付き無料塾は、現在、5名の社会人学習支援ボランティア講師、34名の学生ボランティア講師、10名の食事担当ボランティアの協力のもとで運営しています。

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金 支援報告(2022年3月～2023年8月)



日本ユネスコ協会連盟は、2022年2月4日に始まったロシアによるウクライナ侵攻を受けて2月27日に「ウクライナの危機に関する声明」を発表。UNESCO憲章に謳われる精神を根幹とする私たちは、その価値観を否定するこの戦争に対する行動として、避難民への緊急支援を立ち上げました。多くの会員、協力企業・団体、個人の方々からのご支援により本緊急募金には8200万円を超える寄付が集まり、2022年3月から2023年8月までウクライナ国内および隣国のルーマニアで避難民支援を実施しました。皆さまのご支援に感謝いたします。

侵攻から2年以上経過したいま、世界各国に逃れているウクライナ避難民の数は650万人近くになり、市民の死者は1万人を超えています(国連、UNHCR情報)。

ウクライナの日も早い平和の実現を願ってやみません。

(海外事業部)



▲ルーマニアに避難している子どもたちが書いたお礼のメッセージ。子どもたちの名前とともに指でハートが描かれている
©アルムナス・ユネスコ・クラブ

支援内容	ウクライナ国内の避難民およびルーマニアへの避難民に対する食糧や生活物資の支援。子どもたちの心理ケアを目的とした絵画教室や旅行などの支援
対象地域	ウクライナ・ザカルパッチャ州およびチェルノフツィ市 ルーマニア・ブカレスト市およびスチャバ市
募金総額	8239万1119円(2022年3月～2023年5月) ※募金の受付は終了しました
受益者総数	約3万4300人(推計)

スロバキア

ウクライナ

ザカルパッチャ州

チェルノフツィ

スチャバ

ルーマニア

ブカレスト

1 ウクライナ ザカルパッチャ州 (スロバキア国境付近)

カウンターパート：ピープルインニード・スロバキア

受益者数：約3万370人

スロバキア国境に接するウクライナ西部ザカルパッチャ州を中心に活動するNGO、ピープルインニード・スロバキアを通じて支援を行いました。2022年5月当時、同州に逃れて来た国内避難民は少なくとも推定40万人。学校などの公的施設を拠点とした15カ所に上る大規模な避難所運営のため、洗濯機、ストーブ、大量の寝具、衣料品などの生活用品や食糧などの物資支援を行いました。さらに、ピープルインニード・スロバキアは現地の各種団体を通じて、避難したスポーツ選手への用具の提供、子どもたちが遊べるスペースの提供、オンライン授業のためのパソコン購入、ホスピタル・クラウン*による子どものケアなどを実施しました。そのほか、教員やスクールカウンセラーへの研修を実施し、トラウマを抱える子どもたちをケアする体制づくりも行いました。

*ホスピタル・クラウン：「クラウン(道化師)」が病院へ行って、入院中の子どもたちに対してパフォーマンスする活動



さまざまな生活用品や食料を支援 ©ピープルインニード・スロバキア



現地の方の声

「戦闘が激しい地域から逃げて来た子どもたちは、安全な場所においても安心感を持っていません。学校でも、解決できない問題に答えを見つけたいと思っていました。今回の研修で得た知識を活用して、サポートを必要としているより多くの子どもたちをケアしたいと思っています。」(2022年10月頃) 子どものメンタルヘルスのための研修に参加した教員

②ウクライナ チェルノフツィ市

カウンターパート：チェルノフツィユネスコ文化センター

受益者数：約480人

ルーマニアとの国境から北へ約40kmに位置するチェルノフツィ市にある、チェルノフツィユネスコ文化センターが開設する避難所には、乳幼児を含む多くの子どもと女性が避難していました。そのため、衣類・寝具・衛生用品・赤ちゃん用品・食糧などを届け、冷蔵庫や洗濯機も設置しました。侵攻による混乱で国内の資金調達が困難だった中、日本からの緊急募金の送金は大きな助けになりました。



避難所の子どもたち
©チェルノフツィユネスコ文化センター

③ルーマニア スチャバ市

カウンターパート：シグヌス科学ユネスコ協会

受益者数：約1490人

ウクライナとの国境から南へ約40kmに位置するルーマニアのスチャバ市を拠点とするシグヌス科学ユネスコ協会と連携して、同協会が支援するウクライナ避難民滞在施設に生活用品を届けました。必要最小限の着替え程度しか持たず、女性の多い避難民の方々へ、チェルノフツィ市と同様、衣類や寝具などを提供しました。また、ニーズに適切に応えるため翻訳機も手配し、意思疎通に役立てられました。ほかにも大学生ボランティアによる子どものお絵描きイベントを通じて、子どもたちの精神的なケアも行いました。



ボランティア学生によるお絵描きイベント
©シグヌス科学ユネスコ協会

現地の方の声

「スチャバ市内ではホテルや学校、スポーツセンター、文化センターなどに人びとが押しかけており、食糧や衣服、さまざまな物資が必要です。夜は氷点下を下回るスチャバで着の身着のまま逃れて来た人たちに必要なものを提供しています。1時間あたり200人もの避難民がウクライナから押し寄せてくるなか、日本の皆さまからの支援は非常にありがたいです。」（2022年3月）
シグヌス科学ユネスコ協会
ダン・ミリチ会長

「避難した子どもたちと遊んで打ち解けると、少しずつ辛い体験を話してくれます。『空襲警報の音がまだ耳に残っている』『あなたは学校に行っているの？ 私も学校に戻りたいな』（絵を描きながら）この壁で、みんなを攻撃から守るの』など。言葉の壁もあって、活動は簡単ではありませんが、自分にできることに取り組んでいます。日本の皆さんの親切なご支援に感謝します。」（2022年4月）
ステファン・セル・マーレ・スチャバ大学
教育学部 ボランティア学生

④ルーマニア ブカレスト

カウンターパート：アルムナス・ユネスコ・クラブ

受益者数：約1930人

ルーマニアで生活しているウクライナ避難民の子どもたちを対象に、小旅行や絵画・工作のワークショップを開催しました。また、子どもたちの誕生日会やイースター、クリスマスのイベントを実施。子どもたちは慣れない生活のなか、旅行やイベントを通じて社会的なつながりを持つことができました。子どもたちのための絵画イベント「Hope for Peace」ではブカレストの美術団体と協働してウクライナの平和を願う作品を募集。38作品が集まり参加賞やグランプリ受賞者への表彰式を実施しました。作品を応募した子どもたちと保護者がルーマニアの古都トゥルゴヴィシユテの史跡や美術館を訪問し、家族で楽しい時間を過ごすことができました。ほかにも母親向けのルーマニア語講座も開催されました。



子どもたちが平和への願いを込めて描いた作品
©アルムナス・ユネスコ・クラブ

現地の方の声

「はじめまして。私はウクライナ軍の一人として戦争の前線に立っています。私の子どもたちをこの旅行に招待してくれたことに、どうしてもお礼がいたいと思いました。子どもたちをシェルターの中に閉じ込めるさまざまな出来事や日々の不安から、子どもたちの気持ちをまぎらわしてくれる団体があって本当によかった。自分一人では傷を癒せないとき、『思いやること』は人と人が築く最も美しい関係性のひとつです。」（2023年3月）
アート体験に参加した子どもの父親

災害子ども教育支援

当連盟は、2011年の東日本大震災で行った奨学金支援や学校施設への支援の経験を生かし、後継事業として2021年に「災害子ども教育支援」をスタートさせました。「災害子ども教育支援」は、国内で大規模災害が起きたとき、子どもたちの学びが途切れることのないよう、被災地で教育復興支援を行う事業です。被災地のニーズに応じて、右記の3つの支援を行います。

これまで「令和4年福島県沖地震」や「令和5年梅雨前線・台風第2号」など、激甚災害に指定された災害において支援を実施してきました。(学校支援部)

①被災した学校等への支援

教育活動の再開・継続に必要な備品等を調達するための支援

②奨学金支援

保護者を亡くした、または被災による経済的な理由で就学が困難な中学3年生に対して、月額2万円の奨学金を3年間給付

③ユース・ボランティア支援

被災地でボランティア活動に取り組むユース・グループに対して、活動費用の一部を助成

「令和6年能登半島地震」災害子ども教育支援募金ご協力をお願い

2024年1月1日から6月末まで(※)に寄せられた「災害子ども教育支援募金」は、「令和6年能登半島地震」の支援活動に役立てさせていただきます。皆さまの温かいご支援をお待ちしています。
※期間は延長する場合があります。

郵便局から

00190-4-84705

加入者名：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

※通信欄に「災害子ども教育支援」とお書き添えください。
※当連盟への寄付金は寄付金控除の対象となります。領収書をご希望の方は、通信欄にお書き添えください。
※窓口で「手数料免除口座」であることをお伝えいただくと、払込手数料が無料になります。

そのほか、銀行振込やYahoo! ネット募金、ポイントプログラムによる寄付、メルカリ寄付など、さまざまな募金方法があります。詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/activitiesitem/educationsupportitem/22789/>

クレジットカードによる募金

当連盟ホームページからお申込みください。

<https://www.unesco.or.jp/onetime-donation/>



世界寺子屋運動

カンボジア スバイルーに22軒目の寺子屋が完成!

2024年2月、カンボジア・シェムリアップ州スバイルー郡スバイルーコミュンに、プロジェクト22軒目となる寺子屋が完成しました。

州北東部に位置するスバイルー郡は、森の中にあることや内戦の影響で、とくに孤立してしまった地域です。州の中では最も貧困率が高く、21.5%の地域住民が1日1ドル未満で生活を送っています。人口の約44%を17歳未満の若年層が占める中、おもに経済的理由から25%の子どもが小学校に通っていません。また、15歳以上の人口の17%に相当する3200人以上は読み書きができません。今回建設された寺子屋も、復学支援や識字クラスを通して地域住民の教育環境の改善につながることを期待されています。

(海外事業部)

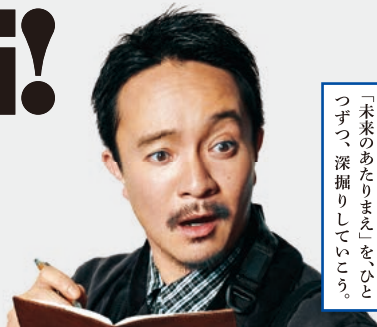


完成した寺子屋を現地の政府へ無事引き渡した。当日はスバイルー郡長および教育担当者、寺子屋運営委員会、当連盟のカンボジア事務所長が立ち会った

DNPの一面!

DNP FUTURE PRESS

DNPがつくる
未来の
あたりまえとは!?



常識は日々アップデートされていく。こは、多彩な技術と視点をもつ人々が出会い、混ざり、掛け合わせりながら、まだ見たことのない新しい未来を自ら描きだす場所その名前は、DNP。ときには、分野や企業の垣根を越えて、人々の身近にあたりまえに存在する欠かせない価値を生みだし続けている。さあ、DNPがつくる次の「未来のあたりまえ」を、ひとつずつ、深掘りしていこう。

未来のあたりまえをつくる。

DNP

DNPの一面

大日本印刷

U-Smile ～みんなでつなぐ子ども応援プログラム



開始から1年、広がる活動

相対的貧困や虐待、ネグレクト、不登校といったさまざまな理由で困難な状況に置かれた日本の子どもたちを対象に、2023年4月、U-Smileプログラムを立ち上げました。この1年間、皆さまのご協力により多くの子どもたちへ支援を届けることができました。U-Smileプログラムは今後も学習支援、居場所支援、体験支援など包括的教育支援を通じて、子どもたちの明るい未来へつなげてまいります。

(教育と社会の課題支援部)

U-Smileプログラム助成事業 2023年度実績

■ステップアップ塾 前橋敷島教室 NPO 法人維新隊ユネスコクラブ

食事付無料学習塾を毎週土曜日に開催し、平日は無料自習室として開放しています。小学4年生～中学3年生の9名の子どもたちへ継続的な学習支援と食事の提供を実施しました。隣市の児童養護施設と連携し、施設からは4名の子どもたちが通っています。講師ボランティアとして23人の高校生や社会人が登録しており、充実したマンツーマン学習を行いました。

生徒の声: ステップアップ塾に来られるときは、皆と話ができて楽しい。ご飯もおいしい。



学習後は講師と一緒に夕食をとる

■ステップアップ塾 高知はりまや教室 高知ユネスコ協会

2023年9月に食事付無料学習塾を開塾。新たに設立された高知ユネスコ協会が運営を開始しました。教室は高知駅から徒歩数分と、通塾に便利な場所に位置しています。20名の生徒が利用し、講師として高校生や大学生、社会人49名が登録しています。調理担当のボランティアもあり、近隣の住民やコンビニエンスストアから食材提供を受けるなど、地域との連携も図っています。

講師ボランティアの声: 勉強したいと思いつながら、さまざまな理由で塾に行けない子どもたちがいることを知り、ショックを受けました。生徒がここに来ることが楽しみといってくれることが、やりがいにつながっています。



静かで集中できる学習環境

■学習支援「てらこや」 箕面ユネスコ協会

地域課題に取り組む(特非)暮らしづくりネットワーク北芝と連携し、小学3年生～中学3年生の子ども21名へ学習支援を実施。近隣在住の大学生11名が講師ボランティアとして登録しています。地域の中心にある市営住宅の集会所で週3回開催しており、学校関係者が参画する運営委員会も定期的に開催し、学校との連携を積極的に行っています。月に1度開催される子ども食堂へ通って共食活動を行い、孤食になりがちな子どもたちに人と一緒に食事する経験をしてもらっています。

講師ボランティアの声: 学習習慣のついていない子どもが多く、机に向かわせるのが難しいですが、子どもの成長を感じられます



大きなテーブルで一緒に学習している

Pick UP!

山口県宇部市との連携協定 進捗報告

2023年9月に締結した連携協定に基づき、14団体からなるワーキングチームを組成し、会合を開催しています。2024年1月に開催した第2回の会合では、宇部市内の支援団体から子どもたちの現状について発表があり、また、2024年度にワーキングチームが提供する体験プログラム案について協議しました。遠足、キャンプ、体験旅行、スポーツ観戦、工場見学、音楽鑑賞などさまざまな体験プログラムを実施する予定です。

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

活動報告会・減災教育フォーラム開催

東日本大震災の教訓・学びを全国に伝え、全国の小中高校の減災教育の改善を支援する本プログラムも10回目を数えました。第10回では、学校と地域のユネスコ協会が協働して地域ぐるみの減災教育を推進する「ユネスコ協会協働枠」を新設し、今回2つのユネスコ協会が参加しました。活動報告会では各助成校・ユネスコ協会が9月の研修を生かした実践を発表し、フォーラムには助成校以外の学校関係者も多く参加し、減災教育を推進するための充実した学びの機会になりました。

(学校支援部)

能登半島の助成校より

第10回の助成校のひとつに石川県珠洲市の中学校がありました。同校は1月1日の「令和6年能登半島地震」の影響で活動報告会には参加できませんでしたが、担当の先生から「被災後、生徒が主体的に行動し地域に貢献しており、本プログラムでの学びが自校の防災教育に生かされている」とコメントをいただきました。

【プログラム基本情報】

主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

協力：アクサ生命保険株式会社／奈良教育大学ESD・SDGsセンター

プログラム・コーディネーター：及川 幸彦氏 (奈良教育大学ESD・SDGsセンター 副センター長、奈良教育大学 准教授)

後援：文部科学省／日本ユネスコ国内委員会

活動報告会

2月2日(金)

開催地 アジュール竹芝(東京都)

内容 講義、グループワークを含む助成校の実践発表など

参加者 2023年度助成校29校の教員29名、2ユネスコ協会・クラブ2名 計31名

実践事例紹介①

紀美野町立下神野小学校(和歌山県)

同校は、令和5年梅雨前線・台風第2号の被災地にある学校です。被災後、子どもたちが地域で起こる災害やその危険性を理解し、自他の命を守るために主体的に行動できる力をつけることが課題でした。9月の教員研修会で気仙沼市の学校の減災教育の実践を視察し、災害を自分ごととして捉え、地域と学校がどう連携するかという視点に立ち、自校の取り組みを改善しました。市役所や学校運営協議会、中学校と連携した合同防災学習や、隣接することも園との合同避難訓練など、地域と連携した取り組みを工夫する中で、子どもたちが自ら課題発見・解決に向かい、災害を自分ごととして捉える意識が高まりました。子どもたちの意識の向上が地域の減災意識の高まりにもつながっています。



市役所、学校運営協議会や近隣中学校と連携した地域合同防災学習の様子

実践事例紹介②

<ユネスコ協会協働枠>福岡県立三池工業高校

災害時の指定避難所でもある同校は、大牟田地方ユネスコ協会と協働し、生徒が主体的に減災について学び、地域に伝える取り組みを行いました。9月の教員研修会で視察した気仙沼市の学校を参考に、生徒が考え・調べ・体験する活動を多く取り入れました。具体的には、近隣の中学校での出前授業、大牟田地方ユネスコ協会が主催するイベントでのワークショップのほか、協会の同年代の会員とともに共同発表などを行いました。文化祭では市役所や消防本部と連携した避難所・煙体験など、地域への積極的な発信にも取り組みました。ユネスコ協会と学校が協働し、地域の減災意識の強化につながっています。



大牟田地方ユネスコ協会が主催したイベントで、三池工業高校の学生が協会の同年代の会員と共同で、災害時のトイレ対応について実験を交えながら報告を行った

減災教育 フォーラム 2月3日(土)

開催地 アジュール竹芝(東京都)

内容 講演、パネルディスカッション、事例発表

参加者 2023年度助成校29校の教員29名、2ユネスコ協会・クラブ2名のほか、教育関係者、ユネスコ協会・クラブ、一般参加者など計213名 ※参加者数はオンライン配信視聴者も含む

講演 『東日本大震災から能登半島地震へ、そして南海トラフ地震へ教訓をつなぐ』

講師：及川幸彦氏

東日本大震災の教訓を、能登半島地震や南海トラフ地震の対応にどう生かすかをテーマに講演。被災直後の緊急対応から学校再開、教育復興までの段階ごとに整理し、まず命を守り、次に命をつなぐこと、そして学校の再開のため課題解決を図ることについて伝えられました。そして次の段階として、子どもたちが未来への希望を抱けるような支援が必要であることに触れ、支援策のひとつとして「災害子ども教育支援」(P.7参照)の役割の重要性を確認しました。今後の減災教育の方向性については、持続可能な社会をつくる視点に立った減災教育を実施するためのネットワーク構築の重要性を強調。学校と地域の連携に悩んでいる参加者にとって、減災教育改善の手掛かりとなることが期待されます。

パネルディスカッション

減災教育を地域に広げ、未来につなげる～災害の教訓を減災教育の継続と発展にいかして～

パネリストの川田氏が、奈良教育大学ユネスコクラブの活動について発表しました。同クラブは奈良女子高校(2023年度助成校)と連携し、大学生が被災地体験や知識を伝えるだけでなく、同世代という親しみやすさで、課題別学習で高校生と一緒に減災について考え、探究しながら課題解決に導き、高校生が災害を自分ごととして捉えられるような活動を行っています。中学校のユネスコスクール教員の参加者からは、「中学生でも近い年齢の下の世代につなげる取り組みができるよう指導したい」という意見がありました。

モデレーター：上田和孝氏(新潟大学工学部附属工学力教育センター准教授)

コメンテーター：安田昌則氏(大牟田市教育委員会 前教育長/日本ユネスコ協会連盟理事)

パネリスト：廣脇正人氏(鳥羽市立鳥羽小学校 教頭)、高倉洋美氏(大牟田地方ユネスコ協会 事務局長)、川田大登氏(奈良教育大学4回生/奈良教育大学ユネスコクラブ) ほか

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

お知らせ

【第15期ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト】助成校決定

(株)三菱UFJ銀行のご協力のもと、「持続可能な開発のための教育(ESD)」を実践するユネスコスクールを対象に、活動費用の助成を行うプロジェクト。このたび、2024年度(第15期)の助成校が決定しました(上限10万円枠72校、上限30万円枠5校)。助成校は各校の特色を生かした活動を行いますので、活動発表会の際にはぜひご覧ください。

助成校一覧は下記URLまたは二次元バーコードから。
<https://www.unesco.or.jp/newsitem/24181/>



【寺子屋リーフレット制作プロジェクト】最優秀賞決定

今年度の「リーフレット・コンテスト」には全国22校から44作品の応募がありました。投票の結果、立教女学院中学校・高等学校

のY-Iさんの作品が最優秀賞を受賞しました。



最優秀賞作品

本作品は、次年度の「書きそんじハガキ・キャンペーン」のチラシに掲載される予定です。結果発表のページは下記URLまたは二次元バーコードから。
<https://www.unesco.or.jp/activitiesitem/terakoyaitem/24177/>



募集

【高校生カンボジアスタディツアー】参加者募集

高校生を対象にしたカンボジアスタディツアーの現地開催を5年ぶりに実施します。

寺子屋の視察、アンコールワットやキリングフィールドへの訪問を通して、カンボジアの教育の現状や歴史、文化を学び、平和の尊さや国際理解・協力の重要性を自身の肌で実感するプログラムです。募集要項など、詳細はHPをご覧ください。
<https://www.unesco.or.jp/activitiesitem/terakoyaitem/24604/>



第11回「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」助成校募集

全国の小・中・高校を対象に助成校を募集します。本プログラムは、①助成金支給 ②教員研修会(気仙沼市)、③活動報告会・減災教育フォーラム(東京都)を通して、被災地の学校の実践事例や、ESD/SDGsを踏まえた新しい視点の防災・減災教育を学び、自校の活動の改善に活用できます。

詳細・募集要項はHPに公開します。
 募集期間:4/15(月)~5/31(金)
<https://unesco.or.jp/genais/>



理事会・評議員会報告

■第561回理事会

1月20日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) U-Smile 部会

2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

3. 2024年度事業計画書(案)・収支予算書(案)

4. 役員報酬規程の改定について(案)

⇒ 協議の結果、いずれも承認された。

III. 報告事項

1. 令和6年能登半島地震対応について
2. 担当理事からの報告(学校関連・災害復興支援) 安田理事・(世界寺子屋運動) 永田理事
3. 青年理事報告
4. 2023年度 事業進捗報告等
5. 第58回評議員会議題(2/10(土) オンライン開催)
6. 代表理事の職務執行状況報告(2023年)

11月12日~2024月1月19日)

7. 後援・共催事業
8. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

■第562回理事会

3月16日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

1. 2024年度事業計画書(案)・収支予算書(案)・資金調達及び設備投資の見込み(案)

2. 会員種別代表理事・評議員の定数の見直し(増員)について

3. 役員報酬規程の改定

4. 役員賠償責任保険の更新

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) U-Smile 部会

2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 協議の結果、いずれも承認された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告(学校関連・災害復興支援) 安田理事

2. 青年理事報告

3. 第58回評議員会にて提出された意見(第58回評議員会議事要録より)

4. 2023年度 事業進捗報告等

5. 代表理事の職務執行状況報告(2024年1月20日~2024年3月15日)

6. 後援・共催事業

7. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

■第58回評議員会

2月10日(土)、オンラインにより開催した。

I. 報告事項

1. 令和6年能登半島地震対応について
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
3. 会員種別代表理事・評議員の定数の見直し(増員)について
4. 2024年度 事業計画書(案)・収支予算書(案)
5. 部会等からの報告
 - (1) 組織部会
 - (2) U-Smile 部会
 - (3) 世界寺子屋運動
 - (4) 青年理事
6. 2023年度 事業進捗報告
7. 役員報酬規程の改定

日本ユネスコ国内委員会総会報告

3月5日(火)、第154回日本ユネスコ国内委員会総会が開催されました。会議では2023年11月に行われた国連機関UNESCO総会について、また最近のUNESCO関係の動きについて報告がありました。その後、次世代ユネスコ国内委員会の活動報告のほか、ユネスコスクールの秋田県大仙市立大曲南中学校が実践発表を行いました。

現在国内委員会では、「国際情勢等を踏まえたユネスコ活動等の推進についての提言」が各小委員会等で議論されています。総会では、それら小委員会から出された意見も踏まえた案が新たに提示され、提言のとりまとめに向けた意見交換を行いました。その後まとめられた提言は文部科学省HPで公開しています。
https://www.mext.go.jp/unesco/002/004/1346101_00001.htm